

こころを潤す小旅行

そろそろ春の気配も色濃く感じられ、春を楽しむ旅行の計画を立てたくなるような季節となってきた。今回のイー・ウーマン調査では旅行の中でも比較的気軽に行ける「小旅行」に焦点をあてて探ってみることにした。

この1年間に小旅行に最低1回は行っているイー・ウーマンリーダーズは84%であり、全体的には週末や連休を利用したの1泊2日の旅に年2-3回、これが最も標準的なイー・ウーマンリーダーズの小旅行スタイルである。今回は敢えて「小旅行」というテーマに絞ったため、もう少し長期の旅行も含めた実際の旅行回数はこれを上回ることは確実であり、ワーキングウーマン達は不況と言われる中でもなかなか活発に旅行に出かけているといえるのではないだろうか。

今回の調査では、75%近くの人々が抱く「小旅行」の日数イメージは1泊2日以下であった。が、1/4の人々は、2泊3日をイメージしている。このような限られた日数の小旅行であるため、最も最近行った小旅行の行き先は国内が大半を占めていた。彼女たちの小旅行の3大目的は「温泉」「リゾートでリフレッシュ」「食べ歩き」。年末のご褒美消費の項でも触れたように、日ごろ忙しくしている自分へのんびりとリフレッシュする機会を与えるのがワーキングウーマンの小旅行の目的と言えそうだ。中にはお寺で自分を見つめ直したり、研修に参加するなど色々な意味での自分の研鑽を行う女性もいた。一緒に行く相手はパートナーや家族が半数強を占めていた。

直近の小旅行の平均費用は約55,000円、その旅行費用を全額ではない人も含めて、自分で負担している人は73%であった。パートナーと一緒にいった旅行であってもその半数は自分とパートナーの折半、1/4のケースではリーダーズがパートナーの分の費用も負担しているようであった。自分でお金を出しているリーダーズが多いため、旅行の目的地も6割が自分で提案し、情報収集活動にも積極的に自分で情報を集めなかった人は1/4に過ぎず、他人には任せず自分で主体的に旅行を計画しているようである。情報の入手先はインターネットが9割近くに達し、ガイドブックや雑誌などの紙媒体を大きく凌駕していた。宿泊先や観光地の一方的な情報だけではなく、様々なサイトに掲載されている利用者の評判や便利情報を入力するなど、スマートな情報収集術を活用していることが推測される。

日本国内の2泊3日の小旅行先で行ってみたい場所は、やはり温泉の人气が突出している。その他に沖縄・屋久島、北海道・九州など自然に恵まれた場所でのリフレッシュやダイビング、京都や高山など古都の散策を望む声も聞かれた。中にはシティホテルやタラソテラピーでエステ三昧など、女性ならではの希望をもつワーキングウーマンもいた。一緒に行く相手としてはパートナーをあげる人が多かったが、両親や母親を連れて行ってあげたいという親孝行な声も聞かれた。3泊4日の海外旅行をするとしたら、人気が高いのは台湾・韓国・香港など近場のアジアの都市で食べ歩き・エステ派と、グアム・ハワイやアジアのリゾートでのんびり派に分かれる。ワーキングウーマンといえども美味しいものや美・リラクゼーションへの関心は強く、積極的に小旅行を楽しむ姿勢が垣間見えた。

● この1年間の小旅行回数



● 直近の小旅行の目的

(この1年間に小旅行に出かけた562名中)

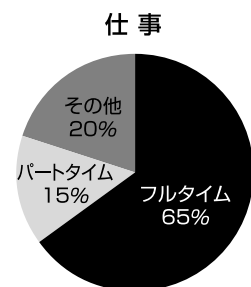
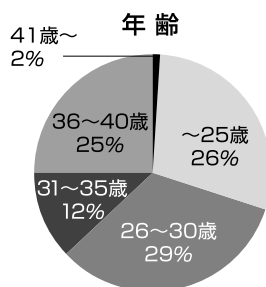


● 直近の小旅行の目的地決定者

(この1年間に小旅行に出かけた562名中)

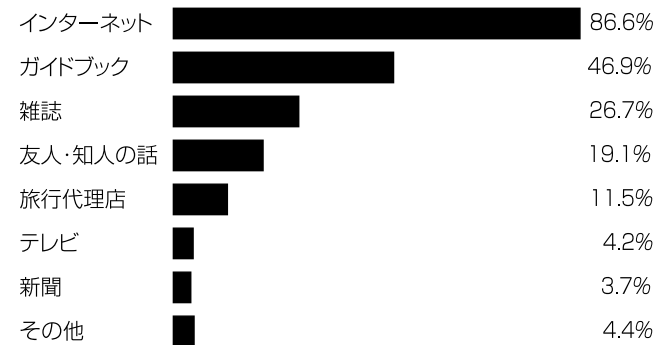
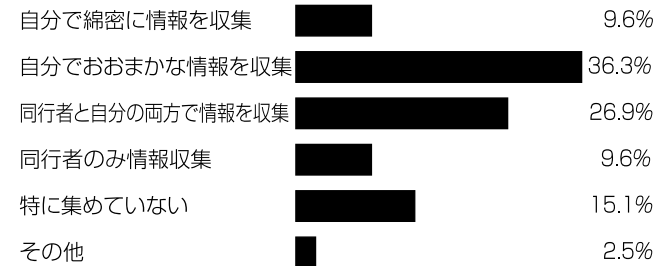


LEADERS DATA



● 情報収集行動と収集先(直近の小旅行)

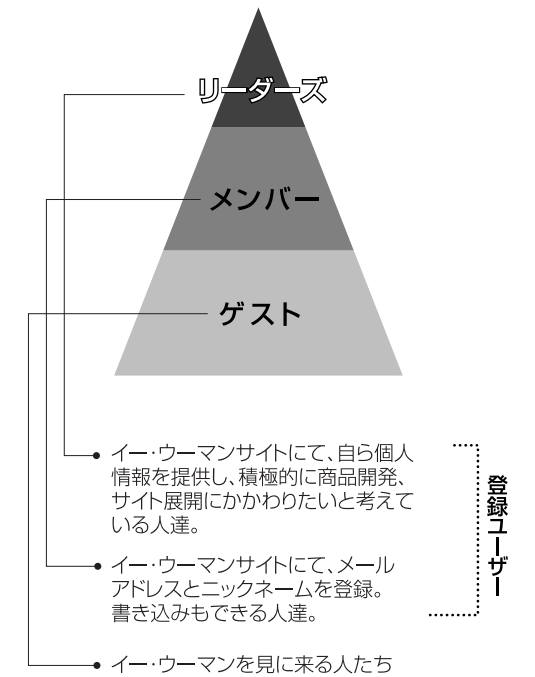
(この1年間に小旅行に出かけた562名中)



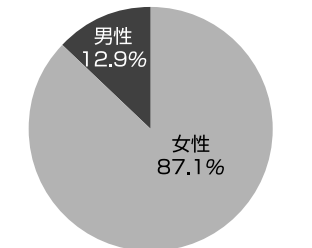
< 調査概要 >

調査実施: 2003年2月18日~21日
調査方法: インターネットによる自記入式アンケート
対象: イー・ウーマンリーダーズ
有効回答者数: 667名

ユーザーの構成



登録ユーザーの男女比



登録ユーザーの年代

